

令和五年十二月号

## 神の旅

佐怒賀正美

家郷なりあらくさやぶら雑草叢の枯れきほふ

しこの醜草しうくさとて収まりぬ枯の景

セルフレジに首ひねりつつ神の旅

老境のとばくち蜜柑剥き合へる

家郷とはこころの秘色花八つ手

令和五年十一月号

## 醜草

佐怒賀正美

雨冷やくちびるの裏厚くなる  
跨道橋の灯火遙かや虫すだく  
霸権めく無茶ぶり背高泡立草  
村墓を取り巻きそよぐ穰かな  
醜草しうくさ蔓草秋の勢ひを余すなく

令和五年十月号

## 青海波

佐怒賀正美

工場区なるに湧き継ぐ虫のこゑ

「入院案内」名編集や虫すだく

名月やソーラーパネルの青海波

朝涼や樹霊紗をなす奥の院

入院近き父二十世紀食らふなり

令和五年九月号

## 高野山

佐怒賀正美

高野八葉芯に日盛りの大塔  
壇上伽藍に白雲と夕蟬と  
万霊は樹液の香なり朝涼し  
朝涼や樹霊紗をなす奥の院

七月十六日は石原八束忌なれば

陶枕いづこ巴里に老師持参せし

令和五年七・八月号

## 入道雲

佐怒賀正美

渚なす琉金の尾や夜の書齋

純正品運ぶトラツク薔薇の昼

墓鳴くや不条理の世の断裂に

怪力乱神巨木の栗の花

パントマイム入道雲の揉み応へ

令和五年六月号

# 師 恩

佐怒賀正美

シエルトーに非ず地下まで造り滝

ルーマニアの俳画家・俳人イオン・コッドレスク氏来日。故・福田眞久先生に捧ぐ

師恩とや新緑二十年ぶりの再会

「岳」四十五周年記念祝賀会

遠 近 法 無 縁 夏 岳 の 意 欲

六義園・心泉亭にての句会

銀 梯 に 緑 雨 の 松 を 整 ふ る

雨 に び く ん 紫 陽 花 の 葉 は 猫 の 耳

令和五年五月号

いびつ

佐怒賀正美

揚雲雀自由がいびつ  
いびつ  
宇宙から人還る日や亀鳴きぬ  
隴夜やスマホ隸従させる指  
ニケの像めく均衡の老桜  
四月馬鹿黒き胸底舐める国

令和五年四月号

## ゴドー

佐怒賀正美

蛇穴を出でてゴドーに懐きけり  
戦車にもデコイある世や鳥雲に  
足拭いてまた弄りたく春の泥  
泥んこに立つ春の泥握り立つ  
工場の果ての微風や蝌蚪の国

令和五年三月号

## 元気

佐怒賀正美

白梅や姫歌で来る幼女と犬  
犬の名は元氣ましてや春の風  
雛遊びはるか火球の通りし世  
天体を愛撫せんとやミモザ湧く  
濃陽炎抜け矢印のこれきり

令和五年一・二月号

## かくれ鳥

佐怒賀正美

枯葦野にかそけき声のかくれ鳥  
天乗せてユリイカといふ冬薔薇  
星巡る舟は「きぼう」や除夜の鐘  
木枯や猫くつついて坐像なす  
冬夕焼神隠しから出て笑ふ